

議 事 録

件 名	第 4 回町田第三小学校跡地活用連絡協議会	
日 時	2026 年 3 月 6 日（金） 10:30～11:20	
場 所	町田第三小学校西校舎 2 階 会議室	
出席者	委 員	グランリビオ町田ガーデンコート自治会
		新小田急住宅自治会
千代ヶ丘自治会		
日向台自治会		
本町田町内会（2 名）		
本町田宿自治会		
弥生ヶ丘自治会		
町田市民生委員児童委員協議会町田第二地区		
※欠席：町田第二地区町内会・自治会連合会、首都高速道路自治会、東ヶ丘住宅自治会、本町田町内会（2 名）、町田市青少年健全育成本町田地区委員会		
町田市	政策経営部企画政策課	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議事次第 ・ 【資料 1】 第 3 回町田第三小学校跡地活用連絡協議会議事録 ・ 【資料 2】 まちさんかいぎ 2 開催レポート ・ 町田第三小学校跡地活用コンセプトブック ・ 2026 年度町田第三小学校跡地活用連絡協議会委員の推薦関連資料一式 ・ 【参考資料】 投影資料、席次 	
議 事 録	<p>市：ただいまより「第 4 回町田第三小学校跡地活用連絡協議会」を開催する。初めに、事務連絡となるが、本日の連絡協議会は、公表、記録作成のため、録音、写真撮影をさせていただくので、ご了承いただきたい。次に、配付資料は資料 1、2 と町田第三小学校跡地活用コンセプトブックの冊子、2026 年度町田第三小学校跡地活用連絡協議会委員の推薦関連資料一式の 4 点に加え、参考として投影資料、席次の 2 点を配付している。次に、本日の連絡協議会の進め方だが、事務局より、次第に沿って説明させていただく。最後に意見交換の時間も設けているが、質問や意見などがあれば、いつでも遠慮なく発言いただきたい。それでは、はじめに、企画政策課公共施設再編担当課長より、ご挨拶を申し上げます。</p> <p>< 1 はじめに ></p> <p>▶ あいさつ（町田市企画政策課公共施設再編担当課長）</p> <p>市：12 月に開催した第 3 回連絡協議会からこれまで取り組んできた内容についてご報告させていただく。1 月にワークショップの 2 回目を開催し、防災をテーマに講演や体験を行い、1 回目に引き続き、子どもも参加して大変盛況であった。また、町田第三小学校跡地活用コンセプトブックが完成し、自画自賛で恐縮だが、跡地活用の方向性を伝わりやすく表現できたと思っている。後ほど、担当者からご説明させていただきます。</p>	

< 2 前回のふりかえり【資料1】 >

議事の2～6について、配付資料を用いて市から説明した。主な説明については以下のとおり。

市：12月24日に開催した第3回連絡協議会では、主に2点ご説明した。1点目は、ひろばを含む地域の居場所でどのようなことができるか、ゲストの講演や体験を通してみんなで考えるワークショップ「まちさんかいぎ」を10月26日に開催したこと。2点目は、活用の方向性を誰でも簡単にイメージできるように、コンセプトやゾーニングなどの活用の方向性を視覚的にデザインした町田第三小学校跡地活用コンセプトブックを作成中であることをご報告した。

< 3 町田第三小学校跡地活用の検討状況【資料2】 >

市：1月17日に「まちさんかいぎ2」を開催した。『町三小跡地の「日常の使い方」と「災害時の使い方」を知ろう！』というテーマで、大人向けのゲストの講演や子ども向けの防災体験等を通して将来の使い方を考えた。講演は、市の公共施設再編に携わってもらっている、東京都立大学の讃岐助教の進行のもと、日常の使い方については薬師池公園四季彩の杜のブランディングに携わった萩野氏から、災害時の使い方については、町田市防災アンバサダーを務めるコウダ氏からご講演をいただいた。萩野氏からは、整備した場所がみんなに使ってもらえないと意味がなく、地域の方を巻き込んで自然と人がその場に集まるような仕掛けが必要であるといった発言が印象的であった。また、コウダ氏からも災害時に安心して利用できる場所となるには、日常的に利用して慣れておく必要があるといった発言もあり、日常からこの場所に多くの人に関わってもらうことが、日常も災害時もみんながつながれる場となるために重要なのだと改めて認識した。子どもたちには、防災食づくりや防災テントの組み立てといった防災体験と日常の使い方をイメージした空間体験をしてもらった。子どもたちは防災体験を通して、町田第三小学校が学校跡地となった後も引き続き避難施設となることを意識できたのではないかと思う。町田第三小学校跡地活用コンセプトブックが完成した。地域のみなさまに興味を持ってもらうことで、町田第三小学校跡地活用の方向性について知ってもらうことが狙いである。「活動でみんながつながれる場 まちさんプレイス」のコンセプトやこれまでのワークショップ等でも説明してきたゾーニングなどを誰でも簡単にイメージしてもらえそうなデザインとなるよう工夫した。冊子としての印刷部数は少ないので、市ホームページなど電子データでの閲覧にご協力いただきたい。データの提供も可能なので、所属団体内での周知にご協力をお願いしたい。

< 4 今後の予定 >

市：今まで、2027年度末の町田第三小学校の閉校後の次の活用開始までのスケジュールを共有してきたが、校舎の解体にかかる期間が当初の想定よりかかる可能性が高いこともわかってきたため、状況を踏まえながらスケジュールは精査していきたい。2026年度も引き続き、連絡協議会を開催し、跡地活用の検討状況の共有や

意見交換をしていく。ワークショップや民間事業者へのサウンディング型市場調査も継続的に実施を予定している。整備や管理運営には費用もかかってくるので、場合によっては民間事業者と協力しながら進めていきたい。また、2026年度は今年度決定した跡地活用の方向性を踏まえて、具体的な検討を進め、基本計画を策定する予定である。また、これまでの連絡協議会で委員からご指摘のあった、跡地活用に向けた中高生の意見聴取については、今後の町田第三小学校の閉校に向けたイベントなどとあわせて実施を検討していきたい。

< 5 2026年度町田第三小学校跡地活用連絡協議会委員の推薦について >

市：2025年度から設置した、町田第三小学校跡地活用の情報共有及び意見交換の場である町田第三小学校跡地活用連絡協議会にご出席いただき感謝申し上げます。本連絡協議会の任期は1年となっている。各所属団体の中で共有いただき、2026年度の委員についてご検討いただきたい。委員は再任も可能である。2026年度第1回連絡協議会は6月24日に開催を予定している。各団体の役員改選もあるかと思うが5月22日を目途にメールかファックスでご回答いただきたい。

< 6 意見交換 >

委員：サウンディング型市場調査は指定管理者の意見を聞くのか。指定管理者まで決定するのか。

市：まだ、事業手法は決定していない。敷地全てを公共が整備し運営すると多額の費用が掛かるため、例えば、一部の土地を条件付きで貸し付けられないかなども含めて民間事業者と協力できるか可能性を探っていく。

委員：管理運営を委託された民間事業者によって大きく雰囲気が変わると思う。

市：指定管理だと、完成後の施設の管理運営に終始してしまうこともある。管理運営を担う事業者にこれまでの経緯を踏まえてもらえるよう、整備する側と運営する側の連携は図っていきたい。

市：町田第三小学校跡地活用コンセプトブックは、多くの方に興味を持ってもらえるよう、手に取りやすいデザインを心がけたが、印象について伺いたい。

委員：小学生の子どもがいるが、イラストが入っていて見やすいと思う。

委員：活用の検討段階でこれだけ立派な冊子を作るのは珍しい。本腰を入れている市の姿勢を感じる。

委員：現在町田第三小学校に通っている子どもや中高生は遊びに来ると思うので、意見を聞くことは大切である。現在グラウンドを使用している野球チームの練習場所は無くさないようにしてあげたいと強く思う。この地区には児童館がない。子どもたちがまちともや学童、放課後のあそび場として活用していることは意識してほしい。保護者も放課後遊ばせる場所がなくなるという危機感がある。

市：旧本町田東小学校が現在解体工事中であり、旧本町田小学校が現在本町田ひなた小学校となっている。町田第三小学校はこれから統合されていくが、児童にとっては環境が大きく変わる。町田第三小学校の跡地が地域の居場所となるとしても、閉校後、数年間は工事の期間が発生し、その間使用できなくなってしまう。子どもた

議事録

ちにとって2～3年の年月は長い。ご理解いただきながら進めていきたい。

委員：町田第三小学校の周辺では子育て世帯も増えているが、町田駅まで行かないと0歳児などの小さな子どもが遊べる場所がないので、ここがそういった場所になるとよい。また、高齢者が楽しめるイベントなどもできるようになると良い。

市：建物の規模からしても0歳児から高齢者まですべての人が楽しめるようにするのは難しいところもあり、取捨選択が必要となる場面は出てくると思う。

委員：お手洗いは充実してほしい。お手洗いがきれいなお店は人気がある。清潔感があり、子連れでも使いやすいとみんなが行きやすくなる。

市：2回目のワークショップ講師の萩野さんからも、「ここに日常的に来るにはどうしたらよいか」という話があった。たとえば公文教室をやるなど、日常的に来る仕掛けが大切といった話もあった。お手洗いの充実もそういった仕組みの一つとしてあるのではないか。

委員：パウダールームがきれいだと女性が来る。女性が来ると子どもも来る。

委員：女性の口コミによる影響力は大きいと思う。

委員：ウォーターサーバーなどもあるとよいのではないか。

市：今後計画が進むにつれて、設備の詳細を検討していくことになる。2026年度の基本計画ではそこまで詳細な検討には進まず、事業手法の方向性などの大まかな検討になる。

委員：これまでのワークショップ等で伝えてきた意見が踏まえられている。カフェや憩いの場所があると嬉しいと思っているが、整備の予定はあるか。

市：民間事業者のカフェをやっていただくとなると、採算の話が出てくる。2026年度実施するサウンディング型市場調査で聞いてみたいと思っている。またカフェを運営するとなれば、駐車場の必要性も出てくる。敷地をどの程度駐車場に割くことができるのかといった検討も必要になると思う。

委員：子連れで楽しめるカフェがあれば、親も休むことができる。カフェの運営を地域が手伝うという方法もあるのではないか、といった意見は2024年度のワークショップでも出ていた。

委員：町田第三小学校が解体工事期間中の避難施設については考えているのか。

市：町田第三小学校の解体工事期間中は、旧本町田東小学校の敷地に新校舎が建っている。旧本町田東小学校解体期間中にひなた村に避難していた人たちが新校舎に避難できるようになるため、これまで町田第三小学校を避難先としていた人たちはひなた村への避難が可能となる。具体については、2028年度の解体工事までに防災課と自主防災組織との間で調整が図られるものと思う。

市：町田第三小学校跡地活用コンセプトブックについて、各団体内でぜひ共有をいただきたい。電子データによる提供などのご要望があればご相談いただきたい。町田第三小学校には保護者向け配信アプリ（tetoru）での配信を考えている。

委員：中学校でも保護者向け配信アプリ（tetoru）が活用されているとも思う。

市：周知について検討する。

市：本日も貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。地域のみなさまと活用の方向性を共有しながら進むことができたと感じている。今後は作成した町田第三小学校

議事録	<p>跡地活用コンセプトブックをさらに多くの地域のみなさまと共有を図っていきたい。コンセプトとして掲げた「活動でみんながつながれる場 まちさんプレイス」のイメージを踏まえて、何が必要か一緒に考えながら進めていきたい。芝生の広場と聞くと町田駅近くにあるシバヒロを想起するかもしれないが、地域特性を踏まえた、シバヒロとはまた別の芝生の広場になるのではないかと思っている。2026年度は、施設の具体像を固めていく段階となり、基本計画の検討に入る。町田第三小学校跡地の活用については引き続き企画政策課において検討していくが、市が進める「地域活用型学校の推進」を踏まえた体制となる想定である。本連絡協議会も引き続き行っていくので、引き続き皆様のご参加をお願いしたい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
-----	---